

令和3年度第1回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和3年8月4日(水)

午後2時から午後4時30分まで

宮崎県庁3号館4階委員会室

【生涯学習の視点に立った社会教育の在り方について】

『宮崎県教育振興基本計画 施策1 生涯学習の推進』についての意見聴取

委員	<p>それでは、今から協議に入ります。今後は、宮崎県教育振興基本計画の見直しを中心に協議を行っていきます。</p> <p>資料の宮崎県教育振興基本計画の施策1 生涯学習の推進を御覧ください。</p> <p>現状と課題として、人口減少に伴う地域コミュニティの衰退、子育てに悩みや不安を抱える家庭の増加から持続可能な地域をつくるために、地域の課題解決や活動への積極的な参画や人材育成が必要であることに触れられています。このことについて、同じように、皆様の身近に起こっている現状や、新たな課題になっていることがあれば、御意見ください。</p>
委員	<p>メディア安全指導員の研修会で伺った話ですが、子育てについての悩みや不安を抱えている家庭は多いようですが、家族や周りの人に相談せずに、スマートフォンを使ってネットで解決を図っている状況があるとのことでした。こういった家庭教育では、保護者だけでなく、乳児・幼児も誰とも触れあうことがありません。このことは、家庭教育における新たな課題ではないかと考えています。</p>
委員	<p>家庭教育で、子育てに悩みや不安を抱えている方が増えているということですが、子育てに関する悩みを家族や友人など、周りの人々打ち明けられる方、いろんな集まりに出たり、相談窓口に相談したりできる方は、つながりが自分から取れる方はそれでよいと思います。しかし、子育てに悩みながら誰にも相談できない方、集まりにもなかなか出られず、つながりを作れない方たちのためには、SNSによる相談やいろいろな方とつながりを作るなど、もっとうまく活用することも必要ではないかと考えています。今の社会では、SNSはすごく受け入れやすいツールになっているので、SNSでただ見たり、調べたりするだけで終わらせるのではなく、SNSを通じて誰かに結び付いていく、地域と結び付いていく、そういった活用ができないかと思っています。</p>
委員	<p>教育にとって、人と人が触れ合うこととSNSを使うことのどちらがよいか、判断がとても難しいと感じます。親が近くにいても別に住むことも多々あり、核家族化が進み、心配事があってもすぐに相談できない状況の中、SNSなどのネットに頼ることになってしまっても仕方ないかと思っています。また、子育ては、親から学んだ経験が基本になると思うのですが、それで対応できないことも多くあり、今あるものを活用していくことを考えていくことが必要ではないでしょうか。ネットを通して心の触れ合いがもてるようにできればよいと思います。</p>
委員	<p>確かに今、人と人の触れ合いが減っていることで、SNSといったネットに頼りがちになる状況かもしれません。ネットを使うと、夜泣きで困っている時、夜泣きについて検索すれば、たくさんの解決方法が出てきます。ただし、どれが正しいかは分かりません。ネットで検索したことをうのみにして実践することで、新たな問題を引き起こすことも懸念されます。やはり、人と人の触れ合いの中で子育てをすることは大事だと思っています。</p>
委員	<p>社会教育とは、一致しないかもしれませんが、社会福祉協議会では、子ども宅食がすごく増えています。毎月第何週何曜日に食材を届けるシステムですが、その申込みの窓口にLINEが使われています。なぜLINEを使っているかという点、相談機関はどことも朝8時半から午後5時15分までしか開いていないので、仕事などで相談がその時間にできない方にも対応するためです。そして、申込みをいただいた家庭に、そこを窓口として、ボランティアの方がずっと併走して支援をしていくという取組を行っています。具体的には、初めは毎月食事をただ届ける</p>

委員	<p>ですが、そこから話をしていく中で、子どもが学習で困っているのではないか、お母さんに困り事があるのではないかといった情報を把握し、社会福祉協議会につないで、学習支援を行っている塾に誘ってみるという支援を行っています。こうした意味で、SNSは入口としてすごく受け入れやすいし、特にお一人で、子育てをされている家庭にはすごく入りやすいと思います。ただ、決してそこで終わらせず、入口としてSNSを使うということと、その先の支援に人が関わっていくということをセットで考えていくことが重要かと思っています。</p> <p>今の御意見に関わることとして、宅食は最近急増しています。相談も増えていて、今まで頑張っていた家庭も頑張れなくなり、支援をお願いする先が分からなくて困っているといった状況も見受けられます。こういったところに支援をしていくことが必要ではないかと感じています。また、SNSに関連して、今、タブレットを学校から持ち帰って使う機会が増えてきていますが、Wi-Fi環境ができていない家庭は多いのですが、Wi-Fi環境がない、あるいは慣れていない家庭にとっては負担になっているのではないかと思います。子どもの貧困問題にも関わることですが、一番格差が出るのはここではないかと懸念しています。これまではパソコンとかスマートフォンを持たせないことが当たり前のようにされていたのに、今は持っていない人たちが、タブレットも使いこなせないし、家庭でも教えられない状況になっています。また、家庭の状況によっては、夜不在にする保護者もいます。そして、もっと怖いのは、SNSも含めたネットによる犯罪です。宮崎でも増えてきていると聞いていますが、犯罪が起きるまでの予兆を親自身が分かっていたり、いざという時に対処できなかったりすることが今から増えてくるのではないかと思います。SNSを含めインターネットを使うことは、これから避けられないことだけに、このことを踏まえた教育としては、これまでの教育とは違う見方や考え方の教育が求められるだろうと考えています。</p>
委員	<p>今後の方向性についてですが、今の計画では、生涯学習推進体制及び社会教育、家庭教育の充実に取り組むことが示されています。このこと以外に取り組むべき項目や付け加えるべき視点等がありましたら、御意見ください。</p>
委員	<p>これまでの話でもSNSのことが出ていましたが、SNSは確かに非常に今の社会で活用されている状況です。初めは慣れずに戸惑っていたとしても、使いこなせるようになっていくもので、みんなで集まるなど、何かしようといった時や情報を得たりする上でとても便利だと思います。高校で子どもに持たせるかを学校が禁止するとかしないともありますが、SNSなどを活用していくことを考えると、保護者と一緒に情報リテラシーやネット犯罪、校内でのルールやマナーを学ばせたりすることは必要とは思っています。特に、高齢者の方については、例えば、地域に貢献したい、仲間をつくりたいと思っても、どこで何をやっているかを知らないという方もいると思うので、情報を得るためのスキルを習得する機会の提供やインフラ整備ができれば、もっと地域の活性化につながると思っています。今までも、こうした議論はありますが、SNS等の活用を進めていくためにも、教育の機会を設けたり、お金をつけてインフラ整備したりといった施策が具体的にあってよいのではないかと考えています。コンテンツを充実させることは、情報にアクセスできる人に限定されてしまうことも多く、例えば、Wi-Fi環境がない家庭に対しては、最低限必要なインフラとして補助することも必要ではないかと考えます。また、SDGsについてですが、SDGsには、貧困なくそうやジェンダー平等、環境をよくしようなど、1から17までの目標があり、人によって取り方も違ってきます。安易に取り入れてしまうと混乱するので、例えば、SDGsの17の目標と、今、生涯学習、社会教育でやっていることを紐づけて考えるなど、整理して出さないと、トレンドっぽいけど訳が分からないといったことになるので、使い方には気を付けた方がよいと思います。</p>
委員	<p>SNSのことに関連して、〇〇委員がおっしゃったように、どう使うかというところで、連絡を取ったり、写真を送ったりする中で、以前よりSNSを使うことによって、状況が分かりやすくなり、よりより行動がとれるようになったと感じています。SNSを使えるという条件</p>

	<p>はありますが、人と社会教育とを効果的につなげるツールとして活用できるのではないかと考えます。また、SNSを含めインターネットを活用するにあたっては、ただ知識を得るだけではなくて、アクセスすることを通り点として、社会教育につながるような工夫であったり、人とつながる場となるような工夫であったりが必要と感じているところです。子育てに関しては、昔は、親がいないとすぐには情報が得られず、本等を頼ってもなかなか十分な情報を得られないという状況もあったように思います。しかし、今は、インターネット等で検索すると、すぐに情報が得られます。ただ、あまりにも情報が多すぎるといった問題も生じているので、真の情報にアクセスできるようにしていくことも必要と思います。こういったことから、社会教育にアクセスする1つのツールとして、SNSを含めインターネットを活用することも考えていくとよいと思います。</p>
委員	<p>先ほど〇〇委員からGIGAスクールについての御意見をいただきましたが、現状について伺いたいと思います。〇〇委員はいかがでしょう。</p>
委員	<p>〇〇市は、1人1台端末が配付されて、今はそれぞれの学校に応じて、授業の中でICT活用した授業をする方向で進んでいます。まだ家に持って帰ることはありません。先ほど、家庭に持ち帰った時にWi-Fiの環境が整っていないという話がありましたが、〇〇市では昨年、家庭での接続についてのアンケート調査がありました。Wi-Fi環境が整っていない家庭への援助とか支援があると、家庭でも使えるようになると思います。</p>
委員	<p>〇〇町も1人1台タブレットが使えるようになっていきます。職員も、授業でいかに効果的に使うか、4月から町で一斉にICT研修に取り組んでいます。持ち帰りについても、Wi-Fiの環境調査を全家庭に行うなど、準備を進めています。ただ、持ち帰るにあたっては、先ほど出ましたが、Wi-Fiの環境が整っていない家庭に、必要な機器を貸し出す等の検討が始まっている段階で、実際にはまだ貸し出し、持ち帰りまでは行っていません。</p>
委員	<p>高校では、小中学校のように1人1台端末タブレットの配布はできていません。学校にタブレット30台といった限られた中で対応しています。また、高校では、スマートフォンの持込みが容認の方向に進んでおり、学校での使用について、ルールづくりが進められている状況です。ただ、スマートフォンの便利さの裏には、友達の悪口等の書き込みやいじめ、性犯罪などの危険性がありますので、スマートフォンやSNSを使い方について、生徒指導部が中心になって講座を行うなど、命を守る教育の一環としても取り組んでいるところです。授業の方では、情報に長けた学科など、教育環境を生かしながら取り組んでいます。スマートフォンを全員が授業で使うといったBYOD (Bring Your Own Device) という環境について、現在、研究が進められていて、県全体での統一した見解は出ていませんが、各学校では模索しているところです。</p>
委員	<p>他に、今後の方向性について御意見はありませんか。</p>
委員	<p>これまでの協議にもありましたが、社会教育において、いろいろな団体との連携を強化し、支援体制を充実させていくことにつながると思うのですが、これまでは社会教育とあまり関係なかった団体に対して、社会教育をつなげていくという視点があるとよいのではないかと思います。例えば、宅食で食材を届ける際に、その方に必要と思われる情報を提供してもらったり、社会教育と関係している方や団体を窓口にして、これまで直接社会教育に関わっていなかった方や団体を通して社会教育を広げ、人と社会教育をつなげていくといった視点があるとよいのではないかと考えたところです。先日、子ども食堂の推進連携の会議に出席した際に、子どもだけではなく、その家族にも一緒に来てもらい、子どもたちが食事をしている間に、心がほっとするような場を作ってみてはどうかという提案をしました。そうした場で、いろいろな社会教育の情報や、自分たちの問題解決する場がここにあるよというような案内をするなど、これまで届いていなかった方に、情報を届けていくという視点を入れ込むとよいと感じたところです。</p>
委員	<p>福祉に関する事業を行う中で感じるのですが、支援を必要としている方たちは、全然交流</p>

委員	<p>ができていない状況にあります。また、貧困問題について、今回の新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに関わる機会が増えており、宮崎には支援を必要としている方が多いと感じているところですが、そうした状況があることを知らない方も多い状況かと思えます。今の〇〇委員の御意見のように、福祉と社会教育と一緒にやっていける場が増えていくと、もしかしたら隣にいるお友達が、本当は困っているのではないかという視点をもってもらえたり、貧困状態にある家庭が、つながる場を知るきっかけになったりなど、手立てとしてよいと思えました。</p> <p>今、お2人の委員が言われたことは、普段から感じていることで、私たちが日頃から行っているものの中に、福祉教育という分野があります。多分、福祉教育というと、障がい者や高齢者の方のことを学ぶというように思われる方も多いと思います。実はそういうことだけではなく、いろいろな立場の方がそれぞれ役割をもって、地域課題解決に向けて、一緒に考えて一緒に行動していくというもので、まさしく社会教育とイコールのものです。そういった福祉教育と社会教育が全く同じものなのに、なかなかつながることができていないというか、学校と例えば社協などと、つながる場が限られてしまっているとすごく感じます。せっかく同じ目的をもっているものなので、何か一緒にできるとよいと思えます。</p>
委員	<p>「学校と」というキーワードが出ましたが、今、高校では、総合的な探求の時間がありまして、いろいろな地域の課題を解決するために、生徒が研究をしています。その中に、先ほど御意見があったものについても取り組んでいますので、ぜひ学校に、地域の方に来ていただいて、どうすれば地域課題と一緒に解決できるのかというところで、学校と地域が交わっていくとよいと思えました。昔は、地域の役割がとても大きかったと思いますが、コミュニティが欠如してきている今、地域を支えるための核として、学校の役割が大きくなっていると思います。高校生は、非常にパワーがあり、地域を支えたいと思っている生徒もたくさんいます。しかし、地域のことを分かっていないところがありますので、地域の方が、高校生と一緒にワークショップなどを行い、地域課題を一緒に解決しようという姿勢で取り組んでもらうことで、さらにいろいろな課題の解決につながっていくと思います。また、それが地域を愛する子どもたちの育成にもなりますので、そうした機会を増やしていけるような取組ができるとよいと思えます。</p>
委員	<p>国も生涯学習の観点からICTの活用やつながる社会教育をうたっていますが、ライフステージ、ライフスタイルに関わらず、インターネット関係は、入りやすい入口になってきているように感じています。生涯学習、社会教育においても、無駄のない情報の受け取りややりとりができるという意味でこれから重要になっていくと思います。ただ、少年、青年にとってはインターネットが入口になった方がよいかもしれませんが、アナログの方が入りやすかったり、アナログでしか対応できなかったりする方もいるかと思えます。こうしたことから考えると、社会教育にしても、生涯学習にしても、全ての窓口となり、どのような課題や要求にも対応できる優しさのある環境を、アナログとインターネットを使い分けながら構築していくことが大切ではないかと考えています。</p>
委員	<p>今、皆様の意見を聞いて、特にSNSについて考えるところが多かったです。数字が正しいかどうか分かりませんが、全国的に小学校で4割以上、中学校でも7割以上、高校生だったらほぼ10割近くスマートフォンを持っているという現状があると承知しています。そういう中、先だって、中学生、高校生、大学生を対象とした事業を行いました。その際、講師の先生は、参加者が当然スマートフォンを持っているという前提で、QRコードから入るアクティビティを展開されました。しかし、スマートフォンを持っていない子どもたちもいました。保護者の家庭教育方針かもしれませんし、もしかしたら、生活に困窮している方もいるかもしれません。いろいろな背景があると思いますが、これから私たちが生活していく上で、SNSは避けて通れないツールであり、これをいかに活用していくかということが大事になってくると思います。〇〇委員から、スマートフォンの使い方等に関しては、いろいろリスクがあって犯罪につながるおそれもあることから、学校で教育しているという話がありましたが、保護者への学びの</p>

委員	<p>場の提供も必要ではないかと考えます。子どもたちを指導する立場である保護者もまだ不慣れで、そのリスクについてしっかりと教えられない、ルールもなかなか決められないといった家庭もあるのではないのでしょうか。そこを誰がカバーしていくのかというところで、やはり社会教育の領域ではないかと思います。そういった部分を手当していく意味で、社会教育がもう少し力を発揮するような文言を盛り込んだ方がよいように感じたところです。</p>
委員	<p>公民館に携わる立場として課題の一つ挙げさせていただくと、地域づくりを進めていく上で公民館への加入率の低下が課題になります。地域づくりを誰がどうやって進めていくのかを考えたとき、公民館へ加入率が100%であれば、地域づくりにみんなが参加するということになります。公民館に加入してない方は、そういったことに無関心な場合もありますので、心配しています。地域と学校の連携については、〇〇委員も発言されましたが、コーディネーターのような方が地域にいと、地域と学校とのつながりが強いものになると感じています。</p>
委員	<p>先ほどありました福祉関係との連携についてですが、〇〇市のPTA連絡協議会では、毎年、数回教育委員会とも情報交換会をします。その中で、不登校のことで悩んでいる家庭が多いという議題が出され、市の教育委員会が教福連携会議を立ち上げまして、福祉関係団体の方からも、お手伝いできることがあればという話をいただいたと話されていました。また、貧困家庭の問題については、PTAが一番情報をもっているだろうということで、情報提供等、何かできないかという話をいただいているところです。これまでは、福祉関係団体との横のつながりは全くありませんでしたが、今後はこうした横の連携を考えていかなければいけないと感じているところです。SNSに付随する様々な問題については、〇〇市のPTAでは、メディア安全指導員の方を積極的に活用しています。大人だけではなく、教職員向け、子どもたちには学年に応じて、メディアとのつき合い方等の話をさせていただくなど、メディア安全指導員の方を利用している学校が増えていると感じています。</p>
委員	<p>横との連携についてはとても気になっています。行政が縦割りになっているだけに、餅は餅屋というように、自分たちで解決しようとしているのが現実ではないかという気がしています。社会福祉協議会の理事、学校運営協議会の委員をしており、協議の場面で「横の連携が必要です。」「地域との関わりが大事です。」という話を伺いますが、そこに携わる人は限られています。だから、なかなか解決にはつながらず、ましてや旧態依然とした役を仰せつかっているという形だけで終わってしまっているところもあるように思います。県社会教育委員連絡協議会の研修会で、講師の先生が言われたことですが、長期的な視点に立った人づくりが大事になっていて、人口減少になって担い手がいないという状況が喫緊中の喫緊の課題と考えます。</p> <p>〇〇委員の意見は、本当に現場の声だと思います。もうきれいな時代では済まない時代になっていて、連携は絶対に必要ですし、人づくりも大切です。人がたくさんいて、何も言わなくても参加してくれる人がいるような時代ではなくなっています。そうした時代は、一つの組織でどうかなっていたと思うのですが、今の時代は、一つの組織だけでは対応できないことも多くなっているように感じていますし、一つ一つの組織が弱くなっているようにも感じます。また、以前の学校は、学校のことば学校でという印象でしたが、今は、地域住民が学校に来ることを求められるような時代になってきていて、地域と学校の関係も大きく変化しているように思います。ただ、いろいろな団体が連携するには予算も必要になり、横とのつながりは必要ですが、行政的なところが原因となって阻害されている面も多くあるのではないかと感じています。SNSについてですが、私たち世代は、テレビっ子と言われている時代で、親からは、番組によっては見ないよと言われる時代でもありました。孫の世代は、ゲームやSNS等の中毒みたいになっている状況も見受けられますが、私たち世代の子育てにも責任があるのかと思います。テレビは一方的で規制することもできますが、SNS等のインターネットの場合は、相互のやり取りもあることなので、その必要性や使い方等について具体的に考える必要があると思います。また、将来親となる今の子どもたちが大きくなったとき、どういう社会になって</p>

委員	<p>いて、親としてどういう子育てが求められるかを想像しながら、その資質を育てていくことが大切だと思います。</p> <p>これからは、社会教育と福祉との接続がやはり大事だと感じているところです。子ども食堂や宅食を行っている機関や団体、地域の子どもたちを集めて、学生ボランティアが勉強を教えるといった寺子屋学習の取組をされている団体等と、従来の社会教育関係団体とが結び付くことが大切なのではないかと考えます。そして、そういった団体に、先ほど御意見としてありましたが、社会教育関連のいろいろな情報を提供するとよいと思います。それから、ネットいじめやネット犯罪等、SNSの危険性から子どもたちを守るために、県のメディア安全指導員等の活用や、県教育委員会で行っている家庭教育サポートプログラム、この中にも、SNSについて、スマートフォンや携帯についてなど、メディアから子どもたちを守るために親がどう取り組んでいけばいいのかを考えさせる素晴らしいプログラムが用意されていますので、サポプロの活用も県として積極的に進めていく必要があるのではないかと思います。また、〇〇町で、家庭教育サポートプログラムの先進的な取組が行われています。特に感心したのは、いろいろな職種の方が集まってサポートチームを作り、そのチームが中心になって、訪問支援をしたり、サポプロをされたりしているところです。今後、家庭教育支援においては、訪問支援に力を入れていかないといけないと考えていまして、訪問支援は、孤立しがちな親と相談者をつなぐこともできますので、孤立しがちな困窮家庭を支援していく上では重要だと思います。</p>
委員	<p>時間となりましたので、協議はここまでとなります。皆様からいただきました御意見は、これからの会議に生かしたいと思います。ありがとうございました。</p>